

### (1) 病院執行部について

病院長、副病院長4名および病院長補佐5名を構成員とし、毎週火曜日に執行部会議を開催している。本会議では、病院経営等に関する迅速な意思決定を行うため、懸案事項についての検討を行っている。

### (2) 平成25年度事業報告

#### 1) 経営

平成25年度は、前年度に引き続き病院経営の安定化に向けて、医療用施設設備の改善・更新、医療環境の改善、人員の増強と待遇の改善等を行った。特に重点的な取り組みとして、高規格手術室の整備、ICUの拡充等の事業に着手した。

新規施設基準の取得、各診療科・各部門の努力等により、病院収入額は336.3億円(前年度322.0億円)で対前年度比14.3億円の増収となった。

診療状況は、1日当りの手術件数24.3件(前年度24.2件)、病床稼働率86.1%(前年度87.3%)、入院単価69,310円(前年度67,345円)・外来単価13,060円(前年度12,577円)・平均在院日数16.14日(前年度16.57日)・新規入院患者数20,529人(前年度20,331人)であった。

稼働額における増収の主な要因は、手術単価の増3.0億円、急性看護補助加算(25対1)の算定0.8億円、病棟薬剤業務実施加算の算定(関連分の増加を含む。)0.4億円、諸料金規程改定による増収0.3億円であった。

支出においては、人件費が5.4億円の増、医療費は医薬品や医療材料等の価格交渉による購入や後発品の導入等による削減策を実施し、支出の抑制に努めたことにより2.5億円の減となった。病院経営に係る総支出額で25.7億円の増加となっているが、これらの多くは高規格手術室、ICU拡充等の事業によるものであり、これを除けば収支のバランスはほぼ均等となり、健全な経営に向いてきたと言える。

増収および経費削減の主な項目は下記のとおりである。

#### 【増収】

- ①診療単価の増加
- ②手術件数の維持
- ③在院日数の短縮
- ④新規入院患者の増加

#### 【経費削減】

- ①医薬品・医療材料の価格値引き
- ②後発医薬品採用の推進

#### 2) 診療

安全で質の高い医療の提供をめざした活動を実施した。

- ①7対1看護体制の運用の充実
- ②脳死移植医療体制の整備
- ③病床再配置の実施
- ④がん診療支援専任スタッフの配置
- ⑤積貞棟1階・2階の運用体制の策定
- ⑥診療業務標準化の推進
- ⑦クリニカルパスの整備
- ⑧外来における専門性の高い看護業務の整備・推進(病棟・外来一元化の推進、外来における看護相談・在宅療養指導の充実)
- ⑨周産期医療環境の整備
- ⑩医師・医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の検討(医師の診断書作成業務の支援)

#### 3) 教育

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コ・メディカルの研修プログラムの一層の充実を図った。

- ①看護師教育・研修の充実
- ②優秀な研修医の確保(レジナビ参加等広報活動の強化、住居手当・宿舍等待遇改善要求)
- ③医師、歯科医師研修プログラムの円滑な実施
- ④次期研修プログラムの改善
- ⑤医学教育用シミュレーターによる教育環境の充実
- ⑥全職員に対する教育・研修(接遇・倫理、医療安全、感染管理、救急蘇生)の関係部署による実施の総括
- ⑦大学病院連携型高度医療人養成推進事業の着実な推進
- ⑧ELNEC-Jの開催
- ⑨がん診療連携拠点病院としての京都府下のがん医療従事者向け研修の実施

#### 4) 研究

新規医療開発の推進、外部資金の獲得、実施基盤の整備を図った。

- ①橋渡し研究加速ネットワークプログラムによる臨床研究の体制構築・拡充
- ②臨床研究総合センターが支援する研究プロジェクトの評価・検証
- ③院内臨床試験支援の推進
- ④臨床研究中核病院整備事業の採択・推進
- ⑤iPS研究の促進(京大病院iPS細胞・再生医学研究会の開催)

#### 5) 職員

病院運営の改善、推進に向けて人的資源の増強および労働環境、処遇の改善を図った。

- ①総長からの借用定員への対応
- ②医師の業務負担の軽減
- ③病棟医長等の業務の評価
- ④コ・メディカル職員の処遇改善
- ⑤診療に従事する大学院生等の雇用

#### 6) 組織

組織の整備、横断的かつ柔軟な組織体制への転換を図った。

- ①臨床研究総合センターの整備
- ②がんセンターの整備・充実(化学療法及び集学的がん病床の運用体制の検討、がん登録の推進と業務体制の確立)
- ③手術部の支援・整備
- ④超音波検査センターの確立
- ⑤病歴管理室の強化(他院撮影画像のオンライン受診環境の構築準備)
- ⑥がん薬物治療科の設置

#### 7) 施設・設備・機器

昨年度に続き、診療機器の更新・整備および機器安全管理体制の整備を図った。

- ①新病棟(I期)の建設着手
- ②II期病棟再整備の計画着手
- ③看護師宿舎の借上げの見直し
- ④医療機器・施設整備委員会主導の機器更新計画の推進
- ⑤ME機器センターの機動的運用
- ⑥業務委託契約の見直し
- ⑦研究室再配置計画の検討
- ⑧医療用廃棄物の処理関係
- ⑨ライフライン設備の再生計画

## 8) 患者サービス

患者サービスの充実およびアメニティの向上を図った。

- ① 患者の利便性向上のために公衆無線LANサービスを設置し、運用を開始
- ② 会計待ち行列緩和（診療科受付での診察待ち時間を利用した保険証資格確認・保険証確認が可能なKIOSK端末をより利用しやすい場所へ移転）
- ③ 患者案内システムの機能更新
- ④ 外来アトリウムホールでの映画上映会など各種イベントの開催

## 9) システム

システムの改善・整備を図った。

- ① 総合医療情報システムの改善
- ② 電子カルテの機能強化
- ③ 電子クリニカルパスシステムの機能強化
- ④ FileMakerによるDBサービス支援体制強化
- ⑤ 災害時におけるバックアップシステムの構築

## 10) 地域連携・広報活動

喫緊の課題として体制の強化および活動の推進を図った。

- ① 地域連携の強化（京大関係病院長協議会および京大病院臨床懇話会の開催）
- ② 広報活動の強化（オープンホスピタルの開催、京大病院広報の掲載内容の充実）
- ③ まいこネットを通じて患者への情報提供を拡大
- ④ がん・脳卒中を中心とした地域連携バスを導入し、地域医療機関との連携を強化

## (3) 運営企画室

財政や政策をはじめとした医療を取り巻く環境の変化とともに、医療サービスへの国民の期待はますます多様化している。運営企画室は、経営基盤の安定を通じて大学病院としてより高度な医療サービス・医学研究・医学教育の実現を目指す院内のシンクタンクの役割を担っている。

## 1) 活動内容

- ① 経営安定に不可欠となる病床稼働率向上のために、ベットコントロールセンターへの活動支援を行っている。
- ② 診療科（部）カンファレンスを企画・実施し、病院執行部からの要請を各部署に伝え、また各部署のニーズを汲み、病院執行部などに伝える役割を担っている。

## 2) 主な活動実績

- ・病院経営改善計画の立案
- ・病院運営カンファレンスの開催（年1回）
- ・診療科（部）別運営カンファレンス実施
- ・部署からの要望事項の執行部へ検討結果を報告
- ・定例ミーティングの実施（毎週水曜日）